

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 1 教養を高めるとともに社会規範にのっとり確かな判断ができ、自立できる若者の育成を図る。
- 2 現代社会における農業の意義や役割についての理解をもとに技能や科学的な知識を習得させるとともに専門性を高め、正しい勤労観や誠実な態度、創造性を身につけた社会に貢献できる若者および人間性豊かな若者の育成を図る。
- 3 生徒、保護者から信頼され、地域社会から必要とされる学校をめざす。
- 4 すべての教職員及び生徒があらゆる人と、ともに学びともに生きる社会づくりをめざす。

2 中期的目標

- 1 確かな学力の育成と定着
 - (1) 各普通教科（英語、数学、国語）の学習内容の定着はもとより、課題解決能力の育成を図り、高度な専門技術、知識習得へつなげていく。
 - ア 基礎学力の充実

1年次に外部の基礎学力調査を使用し、英語、数学、国語の学習内容の復習を行い専門高校生に必要な基礎学力を身につけさせる。

*1年次の普通教科（特に英語、数学、国語）に関する苦手意識をなくす。外部基礎学力調査の進路指導への活用。
 - イ 農業に関する専門的知識向上のための授業改善

各科、各コースで育てたい生徒像を明確にする。その実現のために必要なカリキュラムの開発、授業方法、普通教科や他の教科との連携を行う。

特にSSH事業や課題研究の時間を有効に使い、課題解決能力の育成を図る。また、定期的な研究授業が開催の定常化を完成する。

*研究授業の定着及び授業見学週間の設定と全教員の参加。SSH事業の校内での更なる発展、広がり。
- 2 キャリア教育の充実と進路実現
 - (1) 専門知識・技術を習得させ、それを生かした進路指導、進路実現をめざす。
 - ア 早い段階から進路についての意識づけを行う

進路指導部、農場部及び科が連携し、生徒の進路指導方針（就職先、進学先など）を具体化する。

3年間の早い段階から、システム化された進路指導を行い、就職、進学希望者の確定を行う。

就職希望者には、農業現場も含めた企業実習、見学を企画し望ましい勤労観・職業観を身につけさせる。

進学希望者には、確実な学力を身につけさせるため、選択科目の改善などカリキュラムの編成を考えるとともに、論文、英語、数学、国語などの力を高めるための指導体制をつくる。

*就職率100%（関連産業への比率は高いほどよし）、国公立大学への進学者 毎年5名以上を達成する。
 - イ 開かれた学校づくりを通して生徒の社会人としての成長を図る

施設、設備の整備、改修を進め、より快適な校内環境の実現をめざす。

校地の整備を行い、めぐまれた校庭・農地等を地域に開放し、地域の住環境への貢献（定期的な販売実習、庭木の手入れ、公共施設の花装飾など）及び地域の人とのふれあい（園芸講習会、技術指導など）により、生徒の心の成長やコミュニケーション力の強化を図る。

また、平成27年度 学校経営推進費事業により、実習で生産した農作物の販売や情報を発信するアンテナショップを設置・運営する。生産から販売までの6次産業化技術を体験させることにより、生徒の就職意欲や進学意識向上につなげる。

*生徒主体の地域貢献活動の展開（全生徒の30%以上の参加）。
 - ウ 農業クラブ等研究活動の活性化とSSH事業の確かな成果をめざす。

農業科目とも大きく関連する農業クラブを更に活性化させることにより、生徒の知識、技術を向上させ、達成感を多く味あわせることにより科学的背景をもった、農業技術者としての成長を図る。また、関連分野を中心に各種資格の習得をめざす。そのために、SSH事業を完成に向けて推進するとともに、農場部が中心となり各科における農業クラブのあり方の現状を把握し、校内的な位置づけを明確化する。

*農業クラブ全国大会大阪大会（H28）の成功と大阪の上位入賞をめざす。各課題研究班、農業クラブは各種発表会、競技会などに1部門以上にエントリーする。
- 3 中途退学・不登校の減少への取組み
 - (1) 中学校、家庭とのより一層の連携を図る
 - ア 総務部を中心に今まで以上に中学校との連携を強化するとともに、体験入学や学校説明会などの更なる改善、充実を図り、不本意入学生徒を一人でも減らす。

入学生徒に関しては少しでも多くの情報を中学校、家庭から早い段階で入手し、初期段階での指導に生かす。そのため、中学校訪問や懇談会などを企画する。

*日頃からの中学校・家庭との連絡、協体制の構築
 - (2) 教育相談体制のさらなる充実を図る
 - ア 外部団体との連携システムを構築するとともに教育相談委員長を中心とした教育相談委員会を強固なものにする。生徒の情報をこまめに収集し、的確に対応する。

*生徒がいつでも相談できる相談員の常駐体制の構築
- 4 生徒の生活規律を正し、学ぶ環境を作り上げる。
 - (1) 学習に集中できる環境づくり及び自主的な授業態度改善を図る
 - ア 生活指導部と学年団が連携し、授業中の私語、机上の不要物禁止を更に徹底するとともに、生徒指導上の問題にきめ細かく対応する。現在行われている授業中注意3回制度を有効に生かし、全ての教員の取組みや授業が有意義に進行するようにする。また、そのためにも教室の美化をはじめ雰囲気づくりにも取り組む。

日頃から生徒の礼儀（挨拶、言葉づかい、服装）について全教員で指導する。

*すべての授業が整然と行われ、勉学に活気のある教室にする。生徒アンケートにより、授業環境満足度を調査し、平均80%以上にする。

*学年団体制をさらに発展させ、学年団の中に主要分掌のミニ支所があり、各分掌と綿密に連絡をとれるようにする。
 - (2) 学科、校内組織の再編成を行う
 - ア 各生徒の将来への目標を早い段階から決定させ、それを実現させるべく、教員の少人数グループを活用し、より綿密に丁寧な指導体制をつくる。

また、農業の6次産業化や周辺産業への進路にも対応する。そのため、現在の実業3科の教員を5グループに分け、より綿密に生徒指導に携われるようにする。そして、現行の3科を以下の5科（仮称）に再編成することについての模索を行う。

草花園芸科――草花の栽培技術・流通・デザインについて学習し、生活に草花を取り入れる技術者を育成する。

都市園芸科――園芸の栽培技術・流通・安全・環境について学習し、都市園芸を発展させる技術者を育成する。

環境緑化科――緑化・造園技術・景観設計について学習し、生活環境の向上に貢献できる技術者を育成する。

生命科学科――バイオテクノロジーと食・環境との関連を科学的に学び、バイオ技術を食生活環境に活かす人材を育成する。

食品科学科――加工食品の創作・改良を通じて食品を科学的に学び、より良い食生活環境を追及する人材を育成する。

*生徒一人一人の個性を生かしたきめ細やかな専門教育が行える。各科の生徒の希望進路達成度を80%にする。
 - イ 学年団を更に有効に機能させる。すべての面で担任をサポートできるように、学年主任を中心に各分掌と連携をとれる体制をつくる。
 - ウ 古い体制を見直しつつ将来のあり方を常に検討する。

*校務検討委員会の存在を高める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>*全ての項目について、「良くあてはまる」と「あてはまる」を選んだ数を満足度として分析を行った。</p> <p><生徒>総数 509</p> <p>☆高い項目</p> <p>(90%以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の学校にはない特色がある <p>(80%以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備が整っている ・就職に有利。 <p>(70%以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶が良くかわされている ・入学して良かった(学校、学科) ・資格取得への取組 ・進路について考える機会 ・楽しい <p>★低い項目</p> <p>(40パーセント台)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアや地域貢献 ・生徒会活動 ・クラブ活動 <p><保護者>総数 63</p> <p>☆高い項目</p> <p>ほとんどの項目で評価が高い。</p> <p>特に高いものは、特色ある教育、子どもの積極的な行事参加</p> <p>★5割未満の低い項目はなかった</p> <p><教員></p> <p>☆高い項目</p> <p>(80%以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導 ・地域連携 ・学校の特色 ・研究授業など <p>(70%以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員のコミュニケーション ・進路指導 ・リーダーシップ <p>★低い項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AV機器の活用 ・部活動の活性化 ・施設設備整備計画 <p>*その他の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力向上のあり方 ・学校謹慎のあり方 ・学科間の連携 	<p>第1回 5月30日(土)</p> <p>○委員からの意見等</p> <p>(1) 本年度の学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育内容を知らずに入学した生徒がいるのでPRが必要である。 ・春団治まつりでも生徒が来て活躍をしている。近畿大学ではマグロが有名になっているが園芸も何か取り組みがあればPRになる。 ・販売所で会社を設立するのであれば、アドバイスなどお手伝いできる。 ・5学科構想について、1学科40人の定員の場合、教員が連携して情報の共有をすることができ、想像以上に生徒たちは成長できる。 <p>(2) 授業アンケートの実施に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池田・箕面など近隣の中学校を回る必要がある。中学校の先生が園芸を知らないのでは何かアピールできないか。 ・同窓会でも100周年以降も希望者を集めるために協力していく。 ・中学校は入学できるかできないかで受験の可否を判断している。PTAからも協力を得ることも必要である。 ・学校、PTA、同窓生が協力体制をとることが必要である。 <p>(3) HPの更新について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同窓会とのHPをリンクさせてはどうか。 ・HPに校内販売についても掲載してはどうか。 <p>(4) 本校の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻、早退、留年、懲戒件数など出せる範囲で教えて欲しい。 ・地域での園芸高校の生徒の評判は良い。特に問題はない。 ・学校運営でも地域と協力する必要があると思われる。 <p>(5) 本年度の検討課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も経営計画に掲げている内容などを取り上げるとともに、様々な検討課題について取り組む予定。 ・皆さんの意見を頂きながら、学校運営に反映させていきたい。 <p>第2回 9月25日(金)</p> <p>○授業見学を中心に実施した。</p> <p>【意見・感想など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力について 教員のモチベーションを上げることは大事ではないか。やめてしまうと元に戻せないので継続すべきである。創意工夫が大事。1年担当だけではなく教科として取り組む方が良い。 ・授業見学を終えて ：全体的に落ちついている。内容は面白いのに成果としてあらわしていない。さらに頑張りたい。 ：授業に好きで取り組んでいることが良くわかる。中学校の間に園芸高校に進学したいと思わせる取り組みが必要である。 ：実業高校らしさが出ている。販売実習などで中学生に手伝ってもらい、生徒が教える立場にしてみてもいいのではないか。実業系は進学・就職どちらにも選択肢がある。これを強みにしてアピールすればよいのではないか。卒業後、5・6年たったOBに話をしてもらおうなどで情報を伝えてもらえば学んでいる意義が見えると思う。 ：のびのびと学んでいるので、強い熱意を持って学んでほしい。 <p>第3回 2月27日(土) 予定</p> <p>○ 本年度のまとめ 次年度への課題</p> <p>【意見・感想など】</p> <p>A委員：自己診断の結果より、生徒は園芸高校を誇りを持って取り組んでいると思う。昨年度までは生徒が落ち着いていたが、春先は雰囲気が変わったように思われた。しかし、1学期が終わる頃には生徒の顔つきが非常に良くなった。先生方が一丸となって取り組んだ賜物だと思う。目的の持った生徒を育てて欲しい。そのために中学校に学習内容をPRして欲しい。生徒の興味よりも塾のランキングで選ぶようになっている。小学生を体験で受け入れているが、中学生も受け入れて欲しい。</p> <p>校長：行事等も含め学校に呼ぶことは可能である。</p> <p>B委員：昨日の新聞の中学生の進路希望調査で今年度は志願率は高い。淀川工科高校などは吹奏楽など憧れや目的を持って取り組んでいることから目標があれば生徒をかえることができる。また、京都の桂高校などは研究活動に熱心に取り組んでいる。園芸高校も目標を絞ってやっていく方が良いと思われる。そうすれば自分で勉強をするようになってくると思われ、今のままで学校運営を広げていけば良い。若い先生を育てても数年で移動する。教育委員会に異動について伝えるべきではないかと思う。トータル見ると頑張っているが、遅刻・懲戒等のデータでも分析が必要ではないか。</p> <p>C委員：生徒も先生も良く頑張っている。生徒が目的を持って取り組める選択肢を増やして欲しい。また、成果は単年度で見るとは数年で見るとは思える。環境緑化科は造園技能検定やフォークリフト・ユンボの資格なども取得できるが、他の学科の生徒のニーズも取り入れても良いのではないか。自己診断の結果で満足度が非常に高いことから、そのことを外部にもっと発信すべきではないかと思う。組織的にもしっかりとってきている。</p> <p>D委員：池田市未来2030の委員として参加しているが、様々な計画を検討している。一つの案として、高校生レストランのような企画や様々な実験の講習会、ボランティア・花の提供など園芸で協力して頂きたい。また、春団治まつりなどでも協力願う。</p> <p>首席：春団治まつりなど実験をしていたが、販売が中心のため、撤収をしていたが今後、参加について検討をしたい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成と定着	1) 各普通教科(英語、数学、国語)の学習内容の定着はもとより、課題解決能力の育成を図り、高度な専門技術、知識習得へつなげていく。 ア 基礎学力の充実 イ 農業に関する専門的知識向上のための授業改善	(1) ア・外部テストの継続により、新入生の学習習慣の定着をめざす。担当教員固定化2年目を生かし、生徒の学習変化を的確に把握し成績不振層の補助指導も行う。 ・3年生は1学期を中心に一般常識問題など就職対策に取り組みさせる。 イ・授業見学週間、研究授業の体制づくりを引き続き行う。	(1) ア・生徒の取組態度に変化が見られたか(教員への聞き取りから判断) ・担当教員の補助指導体制が構築できたか。 ・就職希望者の就職率100%が実現できたか。 イ・5割以上の教員が他教員の授業を1回以上見学できたか。 ・研究授業参加者数が20名以上。	(1) ア・担当教員の固定化により、個々の生徒の取組状況はよりつかめるようになった。生徒により明らかに差があり、積極的に取り組み、効果を上げている者と真逆の者が存在する。自学自習スタイルを継続するか等今後も検討していく。(○) ・3年生には1学期に10回のSPIテストを実施。就職達成率は96.6%と届かなかったが、1次受験での合格率が81.7%と大きく伸びた(昨年76.4%)就職に有利な学校のイメージを更に来年度に向け向上させていきたい。(△) イ・授業見学週間などで他教員の授業を見学した教員は述べ約45名と増加し、少しずつ土台作りはできてきた。しかし、5割の教員という目標には達していない。外部講師の招聘など今後も授業への意識改革も続けていきたい。(△)
2 キャリア教育の充実と進路実現	(1) 専門知識・技術を習得させ、それを生かした進路指導、進路実現をめざす。 ア 早い段階から進路についての意識づけを行う イ 開かれた学校づくりを通して生徒の社会人としての成長を図る ウ 農業クラブ等研究活動や生徒会クラブの活性化とSSH事業の確かな成果をめざす。	(1) ア・外部基礎学力進路調査を継続使用し、生徒の進路決定への一つの判断材料とする。担任と課題研究担当実業科教員などが連携をとり、早い段階から生徒の進路実現に向け動きをとる。進学希望者へは普通教科を中心に補習体制をつくる。 ・自立支援コースの進路指導の体制づくりを行い、自立支援コース生徒の進路実現を模索する。 イ・定期的な販売実習、公共施設などの緑化管理技術指導などを本年度も継続して実施することにより、本校の地域での役割を明確にするとともに生徒の社会性を伸ばす。設置される校内販売所の有効な運営体制について農場部を中心に具体的な絵を描く。 ウ・農業クラブ全国大会開催に向けての準備を着実に進める。また、上位入賞をめざし課題研究班や課外農業クラブ班は、各種競技会やコンクールなどに積極的に参加する。生徒会クラブ加入率を少しでも高め、生徒により学校に目を向けさせる。4年目のSSH事業を推進し、5年間のまとめへ向かうとともにその後の方向性の模索にはいる。	(1) ア・保護者向け進路説明会の早い時期からの設定ができたか。 ・普通教科の補習体制が機能できたか。 ・進路先未定者0.学校全体で就職先開拓、進学指導ができたか。 ・自立支援コース生徒の進路実現ができたか イ・例年通りの販売実習回数や地域貢献数が維持できたか。校内販売所の絵が描けたか。 ウ・プロジェクト、意見部門で大阪代表1以上。競技会やコンクールで優秀賞1部門以上。 ・4月にクラブ体験週間を設置し、加入率を高められたか。(H26 農業クラブ 33.2% 生徒会クラブ 32.8%) ・報告書を作成、HPへのアップができ、成果を発信できたか。5年目以降の方向性をまとめられたか。	(1) ア・2, 3年生の保護者を対象に4月中旬の日曜日に開催できた。例年より多くの参加があり、効果は高かった。次年度以降も継続していく。(○) ・各種英語検定に対する補習は昨年より継続的に実施できた。本年度新たに、数学と理科も開講され、夏季休暇と2学期にかけて、主に進学希望者を対象に実施できた。(○) ・3/10進路未定者は、就職希望者3名、進学希望者6名の計9名であった。(△) 就職先開拓のための企業訪問については、協力呼びかけの成果もあり、進路指導部だけではなく例年より多くの教員の協力を得ることができた。(企業訪問数82社)引き続き全校体制で生徒の進路実現をめざしていく。(○) ・3名の内、1名が就職内定。2名が訓練校に進学予定。(○) イ・例年並みの通常行ってきた各部門での販売実習や地域貢献数は実現できた。それに加え本年度は、野菜部の月1回の定期市の実現、池田市との連携による市役所、駅前などでの販売実習など例年以上の活動が展開できた。次年度から本格的に活用予定の校内販売所を有効に活用し、農業高校ならではの教育を充実させたい。(◎) ウ・農業クラブの予選会では健闘はしたが、目標には達しなかった。(△)ただし、各種コンクールでは学生科学賞の中央での1等賞受賞を筆頭に大きな成果が得られた。(◎) ・体験入部期間を設置したが、天候の影響もあり多くの参加はなかった。(H27 農業クラブ 32.2% 生徒会クラブ 31.6%)次年度に向け、若手教員を中心にクラブ活動活性化WG.を作り、クラブ活動の活性化を図りたい。(△) ・現在、最終報告書を作成中。HPのリニューアルにより、定期的な活動の発信ができた。2期目申請に向け、最終年度の活動を展開したい。(○)

府立園芸高等学校

<p>3 中途退学・不登校減少への取組</p>	<p>(1) 中学校、家庭とのより一層の連携を図る。 ア 体験入学や学校説明会などの更なる改善、充実を図る。 (2) 教育相談体制のさらなる充実を図る ア 教育相談委員会を強固なものにする。</p>	<p>(1) ア・体験入学や学校説明会の開催時期、回数、内容を地域中学校などの行事なども考慮にいれ、検討する。 ・中学校へ高校側から働きかけ、出前授業などの回数、内容を強化する。 (2) ア・個別支援カードを有効に活用し、入学生に関する情報を早くからつかみ指導にあたる。入学後は保健室や相談委員会からの情報をもとに、担任、学年団とも連携をとり不登校対策へ積極的に動ける組織にする。 イ・きめ細かい指導を行い、早い段階から生徒のつまづきに気づき、相談、援助を行う。</p>	<p>(1) ア・体験入学、学校説明会への参加者数が増加したか。(H26 説明会2回 411名 体験1回 242名 学校訪問対応 8組) ・中学校での説明会や出前授業が増加したか。(H26 説明会 8校 出前授業 4校) (2) ア・個別への対応のための確に相談委員会が開催されたか。月1の定例会の開催ができたか。 イ・中退者数の減少が見られたか。 (H25 16名 H26 7名)</p>	<p>(1) ア・昨年度の数字は付き添い者も含めた数字であった。よって本年度の数字(中学生のみ)と単純に比較できないが、回数を増やしたことにより多くの参加者があったと思われる。また本年度新たにミニ体験会(6回)も企画実施した。(H27 説明会3回 272名 体験1回 141名 ミニ体験6回 129名)(○) ・日程調整などで達成できなかった。(H27 説明会4校 出前授業3校)ただ、出前授業では若手教員にも担当させることができた。今後も育成の面からも続けていきたい。(△) (2) ア・担任、教科担当、養護教諭からの情報をもとに月1回の定例会以外に有効にその都度会議が持たれた。(○) イ・3/10 現在5名、中退者数は減少傾向にあるが、転出者数7名を含めると問題がある。次年度以降、この数に着目したい。(○)</p>
<p>4 生徒の生活規律を正し、学ぶ環境を作り上げる。</p>	<p>(1) 学習に集中できる環境づくり及び自主的な授業態度改善を図る ア 授業規律の確立 イ 環境美化 (2) 学科、校内組織の再編成を行う ア 教員の少人数グループを活用し、より綿密に丁寧な指導体制をつくる。 イ 学年団を更に有効に機能させる。 ウ 古い体制を見直しつつ将来のあり方を常に検討する。</p>	<p>(1) ア・すべての授業で整然と授業が展開され、生徒が自主的に取り組める授業風土をめざす。 イ・農業クラブ全国大会に向けて、校内外の美化に努める。 (2) ア・農場部と担当首席をもって、教員の小グループ化の組織作りを取り組ませ、次年度当初からの展開をめざす。 イ・3年目に入った学年団を機能性のある実行組織になるよう学校全体として取り組んでいく。特に、学年主任のあり方や分掌との連携方法について本校でのスタイルを確立する。 ウ・学校運営会議や校務検討委員会を機能させ、現存する旧体制を見直し、現状に合ったものに変えていく。</p>	<p>(1) ア・授業に関する問題事象数は0に近づけたか。 イ・生徒会、農業クラブを中心に美化運動が展開できたか。 (2) ア・教員の小グループ化の構想が達成できたか。 イ・より良い学年団が構成できたか(教員へのアンケートを実施。数項目を設定し、5段階評価を実施し、7割以上の評価を得たか。) ウ・現状の課題を発掘し、改善策を出せたか。</p>	<p>(1) ア・大半の授業は成立しているが、ごく一部の授業で生活指導案件には至っていないが、やや不安な面がある。昨年度からの流れで1学期に問題事象が1件あった。今後も教員と連携して取り組んでいきたい。(△) イ・あいさつ運動は両クラブと連携が取れ着実に効果を上げているが、美化運動にまで発展できなかった。次年度の農業クラブ全国大会に向け、是非取り組んでいきたい。(△) (2) ア・現状の課題などの対応に追われ、各科とこの件の調整がまったくできなかった。再考の必要を感じている。(△) イ・4段階、設問8のスタイルで担任・副担任にアンケート実施した。上位2評価を高評価とし集計した結果、全体で2.91と値で7割は達した。ただ、設問項目では低いものがあり、今後の課題である。(○) ウ・基礎学力向上のあり方や学力生活実態調査など、会議を重ね有用な意見を提言してもらった。今後もこの組織の活性化を図りたい。(○)</p>